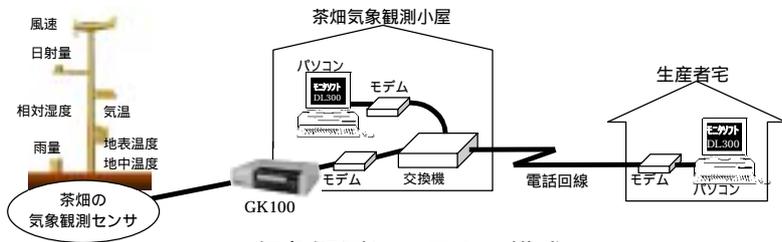


オンライン茶畑気象観測システムの概要と 98年度・99年度の観測結果概要

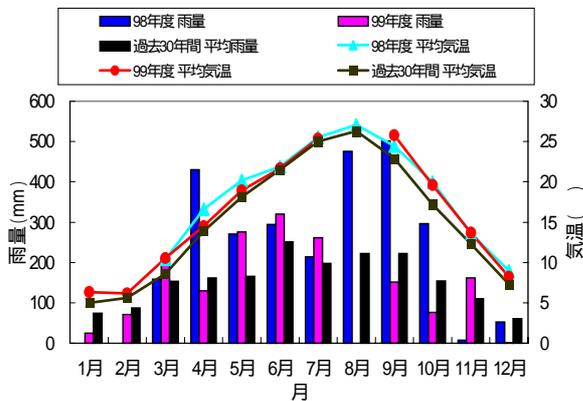
試験圃場には、コンピュータによる気象観測システムが導入され、連続的に運用されている。計測データは、電話回線を通じてパソコンで読み出すことが可能であり、浮島地区の地域気象観測システムとしても機能するようになっている。以下は、このシステムの記録を解析した結果の一部である。



気象観測システムの構成

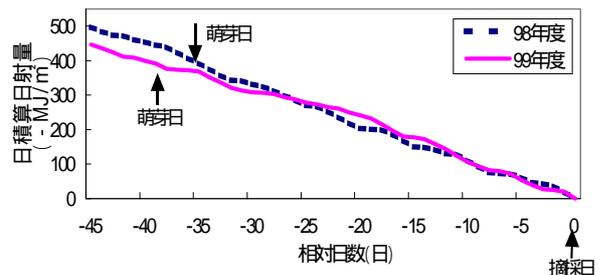
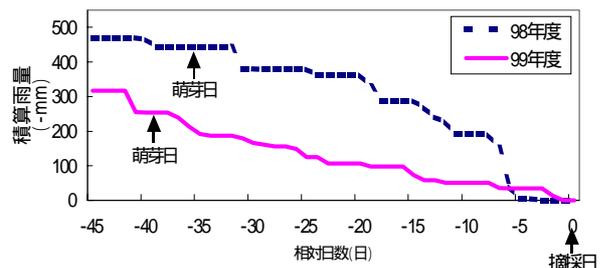
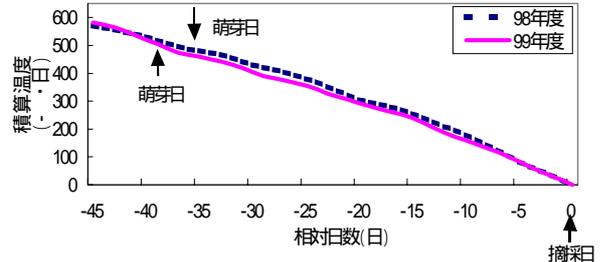


下の図は、三島気象台の30年間の平均気温と雨量との比較である。98年度の雨量が多かったことと、三島と比較して気温は数高めであることが示されている。



平均気温と雨量の年変化

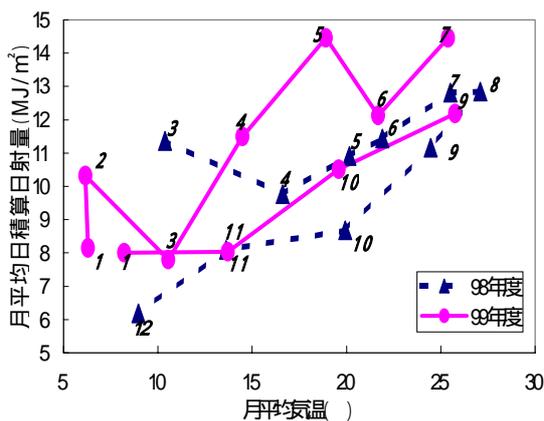
オンライン茶畑気象観測システムの外観
(上: 気象センサ、下: 計測システム)



一番茶の萌芽日から摘採日までの
積算温度・雨量・日射量

右のグラフは、各年度の周辺茶畑の摘採日から、積算温度で萌芽日を推定したグラフである。99年度は、一番茶の新芽の伸長期間の雨量と日射量が、前年より少なかったことを示している。99年度の一番茶収穫量が少なかった原因はここにあるようだ。

下は、各月毎の日射量と気温の交点をプロットした図である。99年度の春先は天候不順であったが、それ以降は、日差しの強い、暑い年であったことがわかる。



クリモグラフ